

第262号 通巻45第5号 令和7(2025)年12月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター 〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077 (585) 4397 Mail maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

先月、渡来人をテーマに秋季講演会を開催しました。広辞苑では、「古代、朝鮮半島諸国や中国などから渡来し、日本列島に定住した人々とその後裔」と渡来人を定義していますが、古くは、朝鮮半島からの渡来人は古、渡す伎と呼ばれていました。しかし、その後、5世紀後半以降の渡来人は今来才伎と区別されるようになります。5世紀以降、渡来人が歴史的に重要な役割を果たすようになったと考えられています。才伎とは優れた技術を持つ人を意味していて、今来才伎は、須恵器生産を担った陶部や馬匹文化に必須な鞍部など、部民制下で職能集団を形成し、ヤマト王権の発展とその後の律令国家の形成に不可欠な存在であったと考えられます。

昨今の日本は、グローバル化が後退する兆しがありますが、およそ千五、六百年前、百済、倭国間の国家レベルの移民政策が繰り広げられたことによって渡来してきた今来才伎などの渡来人は一説では130~140万人、古墳時代末の全人口の四分の1を占めるまでになったとされます。

優れた技能とマンパワーを兼備した今来才伎は、混とんとした東アジア情勢下で、国家存亡の危機を乗り越えるのに大きな役割を果たしたことでしょう。移民政策の成功例ではないでしょうか。

### 発掘調査だより

### 岡遺跡第8次調査

8月より実施していました岡遺跡第8次調査は10月22日に終了しました。

今回の調査では、竪穴建物6棟(SH-1~6)や掘立柱建物1棟(SB-1)、溝3条(SD-1~3)の他、

土坑、ピットを検出しました。

まず、竪穴建物6棟のうち、切り合い関係を持つSH-2、4のうちのSH-2は一辺4.3m程を測る方形プランの建物で、東辺中位にカマドを具え、東南コーナーに貯蔵穴を配置しています。床面から出土する土師器甕や須恵器坏蓋から6世紀台の時期が考えられます。同じく切り合い関係をもつSH-6を切り込むSH-5もSH-2同様に古墳時代後期の時期が想定できます。

調査地中央で検出したSH-3は全容を呈していて、一辺 6.3mの方形の竪穴建物で、床面から貯蔵穴、主柱穴、炉跡を検 出しました。カマドを設けていない点などからSH-2より時期



岡遺跡第8次調査位置図



発掘調査全景写真

の遡る建物と考えられます。 なお、主柱穴からは滑石製管玉が 出土しています。

また、SH-2に切り込まれるSH-4は、著しい削平を受けてはいるもの、周壁溝が残存していたことから竪穴建物であると判明しました。SH-5に切り込まれるSH-6とともに継起的な時期関係にあるものと考えられます。

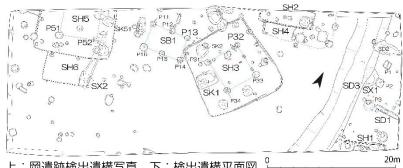
掘立柱建物SB-1はSH-3の直ぐ西側で検出し、2間×1間の規模を測ります。建物柱穴からは須恵器の小片が出土してい

ますが、時期の詳細は把握できませんでした。3条検出した溝のうち、調査地東辺で検出したSD-3は黒 色土器埦などが出土していて、鎌倉時代前期の時期が考えられます。

今回の調査は、レインボー ロードが伸びる西側以外を既 往調査が囲む位置で実施し、 これまでの調査成果、わけて も第1次調査で得た古墳時代 後期と鎌倉時代前期の集落遺 構が当地まで広がっているこ とを確認しました。

その一方で、カマドの代わ りに炉を配置し、古墳時代前 ~中期に時期比定できるSH-3の検出は、古墳時代の集落時 期を従来より遡る成果で、今 後の検証課題であると考えて (油田) います。





上:岡遺跡検出遺構写真

# トピックス topics トピックス topics トピックス topics

## 笠原南遺跡で現地説明会が開催されました

10月5日(日)、笠原南遺跡で現地説明会が開催 され、あいにくの雨空にもかかわらず130名の見学 がありました。

今回の現地説明会で注目されるのは、完掘された 2基の前方後方型周溝幕(下写真)です。前方後方型 周溝墓とは、方形周溝墓の一辺が途切れ、前方部を 持つようになった墓です。

前方後方型周溝墓の築造時期は弥生時代終末~古 墳時代初頭に限定されていて、階層社会の顕在化を



現地説明会開催風景



前方後方型周溝墓(S1、S5)検出写真

うかがうことができます。

さて、2基の前方後方型周溝墓S1、5は隣接していて、 首長2世代の墓と考えられていますが、四角い台状部を同 じ溝幅で巡るS5が古く、次の世代のS1は周溝外周が弧状 に膨らんでいて、形態の違いは一目瞭然です。

なお、前方後方型周溝墓の検出は滋賀県内が突出してい ますが、わけても守山市内では今回、2基の検出を含める と、7遺跡で14例目となり、顕著に見つかる野洲川流域が その発祥とする説もあります。

# 企画展示「阿比留遺跡からみつかった木製樹物と埴輪」の開催について

本紙乙貞でも度々お伝えしてきた阿比留遺跡出土の木製樹物と形象埴輪を企画展「阿比留遺跡からみつかった木製樹物と埴輪」というテーマで11月1日(土)から30日(日)までの期間で開催しました。期間中は、関心のある多くの皆さんが来館されました。

さて、木製樹物とは、埴輪とともに古墳の墳丘に立ち並べられた器物で、古墳時代の首長層が自らの権威を誇示するために所持していた儀仗や蓋、盾、矢を入れる靫といった威儀具や武器などの器財を象ったもので、石見型木製品や笠形(蓋)、盾形、靫形木製品などが知られています。阿比留遺跡第6次調査で検出された古墳(2号墳)の周濠からは、石見型木製品5点や盾形木製品2点、笠形木製品1点が出土しました。



見学風景(秋季講演会後)

石見型木製品が出土する古墳(遺跡)としては、全国18例目、盾形木製品は4例目と大変稀有で、 更に、近畿地方の奈良県と野洲川流域にその出土が偏っています。

時代を遡る3世紀半ば以降、ヤマト王権が列島内に版図を広げた地域には、巨大前方後円墳が築かれます。前方後円墳を頂点とし、規模や墳形が序列化される、いわゆる前方後円墳体制が布かれます。









「阿比留遺跡からみつかった木製樹物と埴輪」展示風景

古墳時代前期、琵琶湖の 水運拠点であった下長遺跡で、首長居館とともにと 動で、首長居館とともに出 の数々の威儀具は強いな マト王権色を放っている マト王権が野洲川流域を マト王権が野洲川流域を 記を通じていたことを物 語る資料と理解すること ができます。

木製樹物もまた、前方後 円墳体制の枠組みとは異 なった、王権との強い関り を表徴しているものと考 えられます。

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Facebook からもご覧いただけます!



◆歴史のまち守山はコチラから
http://moriyama-bunkazai.org

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶ https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks



## 埋蔵文化財センター友の会 第3回見学会を開催しました!

10月10日(金)、第3回見学会を開催しました。 今回は、午前に関西大学博物館、午後は豊中市郷土 資料館と尼崎市立田能資料館を見学させていただ きました。

参加者はスタッフも含めて42名、秋晴れの下で 大阪、兵庫の史跡と文化財の見学を堪能しました。

なお、今回の見学会では、関西大学博物館の今 井、田邊、井藤さん、豊中市郷土資料館の橘田館長、 田能資料館の酒井、中村、竹原さんには大変お世話 になりました。乙貞紙面にはなりますが、厚く御礼 申し上げます。





左:関西大学博物館 右:豊中市郷土資料館見学風景





左:田能資料館屋外での見学風景 右:昼食風景

#### 「湖南地域の古墳文化と渡来人たちの邂逅」 開催しました! 秋季講演会

11月15日(土) 開催の秋季講演会は、「上記のテー マで、滋賀県立大学人間文化学部准教授の金 宇大 さんにご講演いただきました。

4世紀以降に朝鮮半島や中国大陸から渡来した 人々は今来才伎と称され、内政的には、ヤマト王権 の版図拡大やその後の律令国家成立に重要な役割 を担っていました。





金宇大さん講演風景

講演では、古墳時代の金工品研究者の視座から、渡来人 の痕跡が色濃い滋賀県、分けても湖南地域の渡来人が関与 した手工業生産遺跡などを具に捉え、その特性や、ヤマト 王権や大津市に残る百穴古墳群などの横穴式石室群との 関係性に言及されるなど、約70名の受講者の耳目を集め るにあまりあるお話をしていただきました。

金宇大さん、ありがとうございました!

【後記】前号発行以降、10月には、笠原南遺跡で現地説明会が、11月には、昨年阿比留遺跡で検出された稀 有な木製樹物と形象埴輪の企画展示が開催され、発掘調査成果をご覧いただく機会がありました。現地説 明会は、発掘調査を終えて埋め戻す運命にある遺構を見学しながら、調査成果の詳細や意義を知ることの できる啓発事業として、発掘調査実施当初から時代を超えて受け継がれています。

現地に立って、検出された遺構と直に向き合える唯一の時間という点で、茶道の精神文化を端的に表す 一期一会を想起しました。この一期一会とは、ご存じのとおり、一生に一度きりの機会、出会いを大切に し、真摯に向き合い誠意を尽くすことを意味しており、千利休が茶道の肝として語った「路地に入ルヨリ 出ヅルマデ、一期二一度ノ会ノヨウ二 | を茶道に造詣の深い井伊直弼が江戸時代末期に広めたとされて います。現在の行政による発掘調査は、開発によって地下遺構が破壊される前に記録保存するという 調査が大半を占めます。

現地説明会の機会を大切にして参加される皆さんはもとより、むしろ調査担当者こそが一期一会の 精神をもって調査に携わらなければいけない。そんな風に思います。 (馬耳東風)